

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3972000222
法人名	医療法人 みずき会
事業所名	グループホーム げいせい
訪問調査日	平成 20 年 2 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 2 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	3972000222		
法人名	医療法人 みずき会		
事業所名	グループホーム げいせい		
所在地 (電話番号)	安芸郡芸西村和食甲4268番地 (電 話) 0887-33-3454		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年2月22日	評価確定日	平成20年6月2日

【情報提供票より】平成19年12月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 11人, 非常勤 6人, 常勤換算 14.5 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独		新築/改築	
建物構造	木造 造り			
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000~21,000 円	その他の経費(月額)	15000+(電気代) 円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1100 円	

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	芸西病院 芸西歯科	2
---------	-----------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

農業地帯の小高い丘の上に位置し、協力病院も近く、安心して暮らせる環境が整っているホームである。居室の軒下には自分で干した洗濯物が見られ、調理の下拵えや掃除の手伝いだけでない自立支援の形が窺われ、居心地の良い居室作り、利用者同士の関係作りといった事業所理念に沿った介護が実践できている。介護計画には、本人の意向はもちろん、家族の意向についても、「入居生活に対するご家族の要望」として具体的に把握して反映している。また、常勤職員の異動や退職がなく、そこには、開設以来の馴染みの介護の積み重ねを実践しつつ、更に良い介護を模索しようとする管理者や職員の姿勢が窺われる。今後、地域との連携を深めることにより、更に豊かな暮らしを提供できるホームとなることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 「利用者の権利、義務の明示」、「運営理念の明確化及び啓発」、「継続的な研修の受講」、「入居者の金銭管理」などの改善課題に取り組んでいるが、啓発活動や金銭管理規程の作成等まだ不十分な事項もある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に自己評価表を配布し、各自記入した後、各ユニットのリーダーを中心に検討するなど自己評価に取り組んでいる。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの状況や運営に関する報告を基に意見交換をしている。運営推進会議において、認知症予防教材に関する意見が出されたことがきっかけで、レクリエーション担当の職員を週4回雇用することに繋がるなど、サービスの向上に活かすことができている。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 要望はあるが苦情は出していない。苦情が出た場合は、検討会を開催し報告する仕組みがはできている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ボランティアの来所や地元のスーパー・商店での買い物などを通じての交流はあるが、地区会には未加入で地域活動にも参加できていない。地域と繋がって生活する事は、暮らしの継続や安心・安全確保の視点からも非常に重要なことであり、今後の取り組みを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である	○	地域密着型サービスとしての理念の策定が求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 月1回のグループホーム会で理念の確認や職員のあるべき姿など、意識付けをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 利用者一人ひとりのペースに合わせることや、笑顔がこぼれるようなコミュニケーションを心掛けることなど、管理者、職員共に理念を反映した介護を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 <input type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 ボランティアの来所や地元のスーパーや商店での買い物などの交流はあるが、地区活動への参加など地元の人々との交流は十分にできていない。	○	利用者が地域と繋がりながら豊かに暮らしていくために、地域住民の一員として地域活動に参加するなど、ホームと地域の人々が支えあえる関係作りを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 管理者が職員全員に自己評価表を配布し、各自が記入した後、各ユニットのリーダーを中心に検討し、自己評価に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 昨年度の評価で見いだされた課題について、改善に取り組んでいるものの、計画的には取り組めていない。	○	課題解決のためには、長期的な計画を立てることも必要であり、改善計画を作成し、取り組むことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 ホームの状況や運営に関する報告を基に意見交換をしている。運営推進会議において、認知症予防教材に関する意見が出されたことがきっかけで、レクリエーション担当の職員を週4回雇用することに繋がるなど、サービスの向上に活かすことができている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外に	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 急を要する場合は電話で報告し、それ以外の場合も面会時などに必ず報告している。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 毎月、確認のために出納帳の写しとレシートを送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会はないが、年に一回家族交流会を開催している。40名を超す参加者が集まることもあり、意見の出しやすい雰囲気を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 要望はあるが苦情は出していない。苦情が出た場合は検討会を開催し、原因を究明した上改善し、報告する仕組みはできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 法人内の異動は無く、開設以降、常勤職員の退職も無い。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>職員が代わるときは、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。 非常勤職員が替わる時は1週間ぐらい2人体制で業務を行い、利用者への影響が出ないように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 年間の研修計画を作成しており、本年度は外部研修に7名参加し、法人内の新人研修も実施している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 グループホーム会で必ず報告し、皆で共有している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 本人の様子や家族からの情報のほか、病院や施設からの情報提供書などにより把握している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 体験入居はないが、見学時におやつと一緒に食べるなど工夫している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。</p> <p>自分の居室の軒先に洗濯物を干しているように、洗濯、掃除、調理など日常生活上で利用者が出来ることを協働して行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。</p> <p>洗濯物の干し方、食事の味付け、七草がゆの作り方、食材としての餅の使い方等、生活の知恵を教えてもらう場面を設定している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。</p> <p>契約時に本人や家族の希望を聴取している。「入居生活援助に対するご家族の要望書」により、潜在的な家族の希望も把握している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。</p> <p>意思疎通が困難な場合は、過去の言動、表情、態度から思いを汲み取るように努力している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。</p> <p>職員が受け持ち制でセンター方式アセスメントを活用している。カンファレンスは月に1～2回行い、全職員の意見を聞けるようにしている。モニタリングの記録は3ヶ月毎に残している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。</p> <p>食事摂取状況の変化、歩行レベルの低下などがあった場合、プランの見直しを検討している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 通院は家族が付き添っているが、困難な場合は職員が支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ 医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように 支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・ 家族等が希望する医療機関・ 医師に受診できる支援ができて いる。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の 希望に応じて対応している。 皮膚科や泌尿器科など必要な 医療が受けられるように支援し ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有が できている。 家族が付き添った場合は結果を 聞き、職員が付き添った場合も 個人記録や業務日誌に記入して、 職員間で情報を共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり 方について、できるだけ早い段 階から本人や家族等ならびにか かりつけ医等と繰り返し話し合 い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家 族・医師・看護師を交えて話し 合いを行っている。 医療を含む今後の終末期の 対応方針について、家族、医 師、ソーシャルワーカーを交 え話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、 医師、職員が連携をとり、安 心して納得した最期が迎えら れるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 トイレ誘導等、目立たずさりげなく行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 <input type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 採用時に秘密保持についての誓約書はとっているが、個人情報保護法の理解までには至っていない。	○	グループホーム会などで、管理者が個人情報保護の重要性等について徹底し、職員の意識の向上を図ることを望む。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 散歩や買い物はもちろん、ホーム内の別ユニットの利用者との交流など、柔軟に支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 基本的な流れはあるが起床の時間や食事、入浴等、本人のペースに沿うように努力している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切にしている。 利用者の意見を参考にメニューを決め、能力に応じて調理の手伝いや後片付けをするなど、利用者の気持ちを大切にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 日中に入浴する人が多いが、夜間の入浴にも対応できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 利用者の生活歴、家族の話、日々のコミュニケーションの中などで把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 食事の準備、花や野菜の栽培、洋服の縫いなど、経験を活かして能力を発揮できる場面を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 一緒に生活していく中で、買い物、掃除、調理、洗濯、ユニット間の自由な往来等、できることを把握し、楽しみ事に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 馴染みの美容院や喫茶店へ出かけている。 <input type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的にやっている。 協力病院へリハビリのため車椅子で出かけた時、時々戸外に出ることはあるが、積極的には取り組めていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。	○	地域に密着した生活を継続するためには、日常的な外出は欠かせないものであり、歩行困難な利用者が気分転換やストレス解消を行うためにも、職員の勤務体制などを工夫して、積極的な外出支援を行うことを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 徘徊癖のある利用者の外出傾向や外出ルートは把握しているので、様子を見たり、一緒に外出するなどして対応している。 <input type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 協力病院には声を掛け連絡してもらうことはあるが、近所の人や駐在所などには声を掛けていない。	○	地理的に小高い丘の上であり、近隣の民家が少し離れているが、利用者の安心と安全を支える為には近所の人や警察などの連携が不可欠であるため、運営推進会議メンバーの協力を得るなどして関係作りに取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 協力病院の協力を得て実施しているが、地域住民の参加はない。 <input type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 避難路の確保や災害用貯水タンクの取り付けは行っているが、非常用食料の準備はしていない。	○	災害時には地域の協力が不可欠であり、地域住民の参加、協力による避難訓練等の実施や非常用食料の確保をされたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 食事量や水分摂取量はチェック表で把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 好き嫌いのある利用者が多いため、本人の嗜好と栄養バランスに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 協力病院の栄養士が2週間に1回チェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 良心市で購入した花を活け、落ち着いた雰囲気のスファアを配置し、くつろげる共用空間になっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 居間には雛飾り、壁には雛人形をあしらったタペストリーを飾るなど、季節感を感じる装飾をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置おくなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 馴染みのタンス、テーブル、写真立てのほか、テレビや専用の電話を居室に設置している利用者もいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。		